

事務事業マネジメントシート (21年度実績と22年度計画)

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 26 日 作成
 21年度決算把握後 平成 22 年 月 日 作成

事務事業名	行政評価電算システム構築事業					<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	総務企画部	課長名 濱田 善也
	施策	24	行財政改革の推進			所属課	企画財政課	担当者名 工藤 一伸
	基本事業	83	計画的な施策・事業の推進			所属班	政策企画班	(内線) 1244
予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	行政経営運営部会要領	成果優先度評価結果 : 9 コスト削減優先度評価結果 : 6
	1	2	1	11	11483			
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 21年度で終了 <input checked="" type="checkbox"/> 22年度から開始		事業期間		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	市政運営の要である財務会計システムと行政評価システムを運動させ、予算・執行・決算の一連の流れにおいて事業費や人件費等の算定や管理を効率化し、予算や決算の説明資料をはじめ、各評価作業における資料作成等に活用するため、行政評価システムを電算化する事業である。H18.19.20の3ヶ年で構築した行政評価システムについて、事務事業マネジメントシートの作成や施策ごとの評価作業用の資料作成に時間を要しており、電算化によりその時間を短縮し、評価結果を次の改善に活かす本来の時間に振り向けるため、また、予算から執行及び決算まで一貫して管理し効率化するため、電算システムの導入を行うものである。H23年度から第2期基本計画が始まり、策定作業がすすめられており、その実行に合わせた構築が必要となる。また、基本計画の実現をめざしてより効果的な組織とするための機構改革もすすんでおり、機構と合わせた検討も必要となる。
【業務の流れ】	行政経営運営(行政評価システムの効果的な活用検討)部会による電算化に向けたシステム内容の検討、現状の課題抽出(各課等ヒアリング)、システム内容(案)の策定、推進本部における電算システム内容の決定、外部発注事務、システム開発、稼働に向けた調整、第2期基本計画実行(H23.4月)と合わせた稼働
【主な予算費目】	委託料 ※財源として市町村合併補助金を要望。
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	・職員からは、事務事業マネジメントシートの作成について、効率的に取り組めるように改善してほしいという声がある。 ・議会議員からは、施策体系に基づく施策及び事務事業の考え方について、市民にとって分かりやすく示す必要があるという声がある。 ・監査委員からは、決算審査等の資料について、成果を表現する部分がまだ十分でないという意見があった。

1 現状把握の部(DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO) 行政経営運営(行政評価システムの効果的な活用検討)部会による電算化に向けたシステム内容の検討を行った。	22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 行政経営運営部会による電算システム内容の検討、現状の課題抽出(各課等ヒアリング)、内容(案)の策定、推進本部における電算システム内容の決定、外部発注事務、システム開発、稼働に向けた調整
④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 ⇒ ア 運営部会開催回数	(単位) 回 イ
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 行政評価電算システム	⑤対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) ⇒ ア システム開発契約件数 件 イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 効果的なシステムとして構築され活用できる。	⑥成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) ⇒ ア 電算システムによって作成できた資料等の件数 件 イ
*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠 電算システムによって作成できた資料等の件数を見ることで、実際に手作業による資料作成等に要する時間等が軽減でき、効果的なシステムとして構築され活用できることが測れると考え設定した。	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	19年度実績(決算)	20年度実績(決算)	21年度目標(当初予算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	23年度予定	24年度見込
④ 活動指標	ア	回				8	6	2	
	イ								
⑤ 対象指標	ア	件					1		
	イ								
⑥ 成果指標	ア	件					7	7	
	イ								
投資入量	事業内訳	国庫支出金	千円				3,000		
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		繰入金	千円						
		一般財源	千円					1,200	
	(A) 事業費計	千円	0	0	0	0	4,200	0	0
(A)のうち指定経費	千円								
(A)のうち時間外、特勤	千円								
人件費	正規職員従事人数	人				13	13	13	
	延べ業務時間	時間				276	276	146	
	(B)人件費計	千円	0	0	0	1,098	1,098	581	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	0	1,098	5,298	581	0

総トータルコスト 全体計画 ~ 年度
(期間限定複数年度のみ記載)
0
0
0

事務事業名	行政評価電算システム構築事業	所属部	総務企画部	所属課	企画財政課
-------	----------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部 (SEE)

*原則は21年度の事後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input type="checkbox"/> 達成した	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】 ↷
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 ↷ 行政経営運営(行政評価システムの効果的な活用検討)部会による電算化に向けたシステム内容の検討を十分に行い、関係課等(教育部局や特別会計所管部局)との協議を図ることで、効果的なシステムとして構築され活用できる見込みがある。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 ↷
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ↷ (具体的な手段, 事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 ↷
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ↷
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ↷
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 ↷
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 ↷

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- 廃止 休止 目的再設定 事業統廃合・連携 事業のやり方改善(有効性改善)
 事業のやり方改善(効率性改善) 事業のやり方改善(公平性改善)
 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			
	低下			

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策